# 大阪ぼしれん

発行所　社会福祉法人
大阪府母子寡婦福祉連合会

発行人　滝本　美津代
枚方市交北3丁目1番50号
電　話 06(6748)0263
F A X 06(6748)0264
URL : http://www.
osakafu-boshiren.jp/bosh/

2026
11月号
(269号)


トピックス


1面 ・母子家庭母の集い
・決議
2面 ・親と子の交流事業
・近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会
・お礼


## 令和8年　大阪府母子家庭母の集い

令和8年7月18日土曜日、大阪府母子・父子福祉センターにおいて、令和8年大阪府母子家庭母の集いを開催しました。

第1部では、各市町村から推薦された優良ひとり親家庭の母19名と、永年勤続職員2名が理事長表彰を受賞しました。

続いて、中学2年生と大学1年生の会員の子ども2名が家族への想いや将来の夢を作文にして発表しました。



また、第1部の最後には、母子部代表者より、ひとり親家庭および寡婦福祉の向上を目指す決議案が提案され、参加者全員の賛同により採択されました。

第2部では、大阪府ひとり親生活向上事業として、一般社団法人食べるサポート代表理事の向井容子氏を講師に迎え、『生きることは食べること～ちゃんと食べるって、どういうこと？』をテーマに講座を行いました。

講座では、食べることは単にお腹を満たすだけでなく、体づくりの基本であることや、栄養バランスを意識した献立の大切さについて学びました。

最後は、リリーエコーによる美しい歌声と、今年初披露となるフラダンスが披露され、参加者の皆さまは目を輝かせながら楽しまれていました。

締めくくりに、全員で「今日の日はさようなら」を斉唱し、盛会のうちに閉会しました。




### 決　議

令和8年〝大阪府母子家庭母の集い〟において、ひとり親家庭及び寡婦福祉の更なる向上を図るため参加者一同の総意により次の事項を決議し、その実現を関係機関に強く要望します。

《府・市町村へ要望するもの》

1. 大阪府ひとり親家庭医療費助成制度については、親子の健康が自立の基盤となることはもとより、将来を担う子どもの健やかな育成を図るため、同居親族の所得要件を廃止し、本人のみの所得を基準とされたい。また、22歳までの大学生等とその保護者に対して、ひとり親家庭医療費助成制度延長を大阪モデルとして創設されたい。
2. 母子家庭の母等の雇用にあたっては、「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき自治体や地元企業で正規雇用の拡大を図るなど、正規雇用施策の積極的な取組みを促進されたい。
3. ひとり親家庭の就業環境の整備を図るため病児保育・病後児保育を少なくとも中学校区に1ヵ所は実施し、利用方法も簡素化されたい。
4. 放課後児童クラブについては、高学年までの利用引上げと利用料金を市町村において格差なく整備を図られたい。
5. ファミリー・サポート・センター事業を利用するひとり親世帯については、親の所得に応じて利用料金の軽減を図られたい。
6. 母子家庭の母等の雇用対策事業等として母子・父子福祉団体が運営する公共施設内等の売店や自動販売機の設置については「母子及び父子並びに寡婦福祉法」及び「特別措置法」の理念に基づき優先して許可されたい。
7. 貧困寡婦の生活安定対策として、ひとり親家庭を経たひとり暮らしの寡婦に対し、寡婦の医療費助成制度を創設されたい。

《国へ要望するもの》

1. 児童扶養手当制度については、生活実態に合わせて見直されたい。
①所得制限の収入認定額を再緩和されるとともに同居親族の所得要件を廃止されたい。
②第二子以降の手当の再拡充を図られたい。
③子どもが進学する場合18歳到達後の年度末から大学や専門学校卒業時まで支給期間を延長されたい。
2. 「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、雇用の拡大が図られるよう、雇用率の制度化や地元民間事業者への協力要請など、積極的に正規雇用施策を講じられたい。
3. 民法改正の前後に関わらず、養育費の支払いの義務を法律によって強化するとともに、国による養育費の立替え払い制度や、養育費を支払う側に養育費控除などを創設し、養育費の支払い履行を確実なものとされたい。
4. 「ひとり親家庭及び寡婦の医療費助成制度」については、自己負担額や助成内容が居住地にかかわらず格差ないものとなるよう、国による新たな助成制度を創設されたい。
5. 所得税・地方税において、扶養親族のいない生別寡婦や未婚の寡婦に対しても死別寡婦と同様の寡婦控除を適用されたい。

令和8年7月18日
令和8年大阪府母子家庭母の集い　参加者一同

令和８年度　ひとり親家庭　親と子の交流事業



## 8/2 淡路島牧場と神戸ベイクルーズとバーベキュー体験

8月2日(日)、強い日差しが照りつける中、バス4台、総勢158名で兵庫県の淡路島牧場と神戸ベイクルーズへ日帰り旅行に出かけました。

最初に訪れた淡路島牧場では、牛の乳しぼりとバター作りを体験しました。大きな牛を前に、子どもたちもお母さん方も圧倒された様子でしたが、体験の前には牛と記念撮影をしたり、いろいろな方向から牛をじっくり観察したりする姿が見られました。怖くて近づけない子もいましたが、周りの励ましを受けながら乳しぼりに挑戦。初めて触れる牛のお乳に緊張しながらも、みんな上手にしぼることができ、体験後には、「柔らかかった。」、「怖かったけれど頑張れた。」と、うれしそうに感想を話してくれました。

続いてのバター作りでは、動物性生クリームの入った容器を手に、一斉に振って作業を始めると、液体が少しずつ分離して固まり、やがてバターが完成しました。できたてのバターをクラッカーにつけて味わうと、自分で作ったバターのおいしさは格別だったようで、笑顔いっぱいに感想を伝え合っていました。

その後は、牛に牧草をあげたり、淡路島牛乳を飲んだり、ソフトクリームを味わったりしながら、自由時間を楽しみました。

昼食はバスで移動し、じゃのひれBBQガーデンへ。海を眺めながら、また木々の木漏れ日の中で、おいしそうにお肉をほおばる姿が見られました。虫が出てきて避難するテーブルもありましたが、どのテーブルでも会話が弾み、楽しいひとときを過ごしていました。

お腹も満たされた後は、次の目的地である神戸ベイクルーズへ向かいました。大きな船を前に、子どもたちは大はしゃぎで、すぐに甲板へ出て景色を楽しむ子もいれば、船の中を探検する子もいて、それぞれが思い思いに過ごしていました。家族で写真を撮ったり、子どもがお母さんの写真を撮ったりと、微笑ましい時間の中で、ほとんどの子どもがクルーズ初体験で、みんな大興奮でした。



子どもたちはもちろん、保護者の方々にもたくさんの笑顔が見られ、日頃の忙しさを忘れてリフレッシュできる一日となりました。さまざまな体験を通して、夏休みの楽しい思い出ができた日帰り旅行でした。

## 9/14 令和8年度　近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会




令和８年９月13日(日)クレオ大阪中央において、約360名が参加し「つながる力　広がる未来」をテーマに近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会が開催されました。

開会式の後、こども家庭庁支援局家庭福祉課　課長補佐　石田有介氏より行政説明が行われました。

続く研修討議では、コーディネーターに京都華頂大学名誉教授　流石智子氏と神戸女子大学教授　大西雅裕氏を迎え、４名の助言者とともに、今大会のテーマである「支援を活かして、自立を育む」「ひとり親と寡婦、共に育む子どもの未来」「すべての子どもに安心と希望を！」に沿って５名の方の体験発表と助言者を交えてデスカッションが行われました。コーディネーターより「自立した生活とは、ひとりで生きることではなく、人や制度、地域とつながりながら生活していくこと。」「支援する側が親子の持つ力を信じ、その力を引き出すことが大切。」とのアドバイスで締めくくられました。

最後に、決議・大会宣言と満場一致で採択され、令和９年度近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会は9月19日(日)三重県鈴鹿市で開催することが報告され、閉会となりました。

## お 礼




株式会社ハスラック様より、たくさんのマスクをご寄付いただきました。

温かいご支援に、心より厚くお礼申し上げます。ご寄付いただきましたマスクは大切に活用させていただきます。

## お 礼

カラオケ まねきねこ

全国にカラオケチェーン「まねきねこ」を展開されている株式会社コシダカ様より、無料招待券をご提供いただきました。『ひとり親家庭に親子で楽しい時間を過ごしてもらいたい！』というご厚意のもと、ご支援を賜りました。温かいご支援心より厚くお礼申し上げます。

共同募金
赤い羽根募金
10月１日～12月31日




大阪府・青少年育成大阪府民会議

11月は大阪府秋のこどもまんなか月間

社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会
〒573-1161
枚方市交北３丁目１番50号
TEL　06-6748-0263
FAX　06-6748-0264
URL　http://www.osakafu-boshiren.jp/bosh/



ぼしれん
ホームページ
二次元コード

ぼしれん
Instagram
二次元コード